

## 議事要旨

会議名	令和元年度第2回芦屋中央病院評価委員会	会場	芦屋町役場 4階41会議室			
日時	令和元年8月8日(木) 午後2時～午後4時20分					
件名・議題	1. 開会 2. 議題 (1) 第1回評価委員会議事要旨について (2) 平成30事業年度における業務実績報告書の自己評価に対する意見(小項目、大項目)について (3) 第1期中期目標期間における業務実績報告書の自己評価に対する意見(小項目、大項目)について (4) 平成30事業年度における業務の実績に関する意見書(案)について (5) 第1期中期目標期間における業務の実績に関する意見書(案)について 3. 閉会					
委員等の出欠	委員長	山口 徹也	出	オブザーバー (病院)	櫻井 俊弘	出
	副委員長	松田 晋哉	欠	オブザーバー (病院)	井下 俊一	出
	委員	江川 万千代	出	オブザーバー (病院)	森田 幸次	出
	委員	貞安 孝夫	出	オブザーバー (病院)	竹井 安子	出
	委員	中山 顯兒	出	オブザーバー (病院)	檜田 房男	出
	委員	内海 猛年	出	オブザーバー (病院)	中野 悟子	出
	事務局	藤永 詩乃美	出	オブザーバー (病院)	市村 修	出
	事務局	有田 昌子	出	オブザーバー (病院)	坂本 林太郎	出
	事務局	尾崎 彩華	出			
合意・決定事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回芦屋中央病院評価委員会の審議内容について、事務局より提示された議事要旨の確認を行い、公開について決議した。</li> <li>業務実績報告書の小項目の委員意見について、審議した。</li> </ul>					

○議題（１）第１回評価委員会議事要旨について

- ・第１回評価委員会議事要旨の内容について、委員によって確認し、町のホームページでの公開について決議。

○議題（２）平成３０事業年度における業務実績報告書の自己評価に対する意見（小項目、大項目）について

○議題（３）第１期中期目標期間における業務実績報告書の自己評価に対する意見（小項目、大項目）について

○議題（４）平成３０事業年度における業務の実績に関する意見書（案）について

○議題（５）第１期中期目標期間における業務の実績に関する意見書（案）について

（平成３０事業年度）

第１－１－（１）地域医療の維持及び向上

- ・法人の自己評価IVIVに対して、委員会の意見はIVIVとする。

（第１期中期目標期間）

第１－１－（１）地域医療の維持及び向上

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

（平成３０事業年度）

第１－１－（２）在宅医療及び介護までの総合的なサービスの提供

- ・法人の自己評価IVIVに対して、委員会の意見はIVIVとする。

（第１期中期目標期間）

第１－１－（２）在宅医療及び介護までの総合的なサービスの提供

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

（平成３０事業年度）

第１－１－（３）地域医療連携の推進

- ・法人の自己評価IVIVに対して、委員会の意見はIIIⅢとする。

（第１期中期目標期間）

第１－１－（３）地域医療連携の推進

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIIIとする。

(委員長) 医療施設からの受入件数、紹介率が計画より下回っているのに、Ⅳと評価したのはなぜか。

(病院) 指標自体が6つあるうち3つ達成できている。基幹病院・介護施設からの受入件数は増加していたことから、受入態勢が整備されたと考えてⅣと評価した。

(委員) 実績は上がっているが、計画と比較すればⅢとなる。

(委員長) 実績の推移をみれば上昇しているが、計画をみるとⅢで良いと考える。

(委員) 計画の数値が高すぎたのではないか。実態として、前年度と比較すれば上昇している。数字にこだわるのであれば、評価はⅢとして良いのではないか。

(平成30事業年度)

第1-1-(4) 救急医療への取組

・法人の自己評価Ⅲに対して、委員会の意見はⅢとする。

(第1期中期目標期間)

第1-1-(4) 救急医療への取組

・法人の自己評価Ⅲに対して、委員会の意見はⅢとする。

(委員) 救急による患者数は増えている。外来患者の時間外受入数は減っているが、減少理由を分析されているため、今後につなげてほしい。

(委員) 問題は、地域の住民が救急に対して困っているのか。要望が強ければ対策を考えなければならない。

(病院) 救急の受入れに関しては、産業医科大学付属病院に加え、平成15年以降は福岡新水巻病院など救急に特化した病院が近隣地域で多く機能しているため、地域における当院への救急需要は減少しており、強い要望は無いと考える。

(委員) 件数が少なくても受入体制が整っていれば良いと考える。

(委員長) 住民は救急に関する認知ができているのか。

(病院) 近年は、救急病院といえば近隣の救急に特化した病院があるという認知が進んでいると考える。当院としては、現在の体制を維持し、引き続き救急医療への取組みに努める。

(平成30事業年度)

第1-1-(5) 災害時等における医療協力

・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(第1期中期目標期間)

第1-1-(5) 災害時等における医療協力

・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(委員) DMATやJMATの訓練に参加したことはあるか。

(病院) 参加したことはない。

(委員) 近年の自然災害の増加傾向から、被災地への訪問、報告会やシミュレーション訓練等してみても良いのではないか。

(委員) 看護部で災害支援は何人出しているのか。

(病院) 災害ナースを朝倉市へ3日ずつ2人派遣した。

(委員) 報告会をすれば共有ができる。

(委員長) 拠点としての対応、応援としての対応、2つあるということか。

(病院) 災害拠点病院は厳密な規定があり、拠点としての対応については、当院はなりえない。災害対応としては、芦屋町防災計画の中に組み込まれるので、芦屋町の指示を受けて病院が動くことになる。

また、福岡県の自治体病院間で災害協定を結んでいるため、職員の派遣等をはじめ、うまく機能していけると考えている。

(平成30事業年度)

第1-1-(6) 予防医療への取組

・法人の自己評価Ⅲに対して、委員会の意見はⅢとする。

(第1期中期目標期間)

第1-1-(6) 予防医療への取組

・法人の自己評価Ⅲに対して、委員会の意見はⅢとする。

(委員) 病院として、今後Ⅳの評価を得るための計画はあるのか。  
目標が高すぎるのではないか。

(委員長) 独自の計画を立ててみてはどうか。

(病院) 第2期中期目標期間では、数値目標から国保の特定健診を外し、企業健診(協会けんぽ)を実績目標として設定している。今後はⅣになる見込みがあると考ええる。

(平成30事業年度)

第1-1-(7) 地域包括ケアの推進

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(第1期中期目標期間)

第1-1-(7) 地域包括ケアの推進

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(委員長) 今後は認知症の高齢者への対応が増えていき、この取り組みに対する病院の役割が大きくなってくると考えている。

(病院) 認知症サポートチームというものを自治体が持つようになっており、町内診療所の医師や院内のスタッフを中心として構成している。

また、認知症を診療する医師を育てるという仕組みが近隣の地区にはなく、確保できていないのが現状である。今後は認知症をしっかりと診療できる医師を確保したいと考えている。

(平成30事業年度)

第1-2-(1) 医療従事者の確保

- ・法人の自己評価IVIVに対して、委員会の意見はVVとする。

(第1期中期目標期間)

第1-2-(1) 医療従事者の確保

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(委員) 看護師数が年々増加していることが質の向上につながっていると考え。VVの評価で良いのではないかと考える。

(病院) 認定看護師の増加も含め、職員が増えたことで1人1人の患者に手をかける時間が増えた。結果、病院全体の質の向上につながっていると考え。

(委員長) 質の向上というとキャリアパスも重要である。

採用サイト(医師・看護師)での病院の評価や評判については、どうなのか。

(病院) 医師については、採用サイトは使用していない。

看護師については、採用サイトを使用することもある。

評価・評判については、つかめていない。

(委員長) 中途の募集はメディア媒体を使用しているのか。

(病院) 新卒採用は使用している。看護部の離職率はそれほどに高くないと考える。

(委員) 平成30事業年度においては、目標の数値を上回っているため、VVの評価で良いのではないか。

第1期中期目標期間においては、将来目標があるので、それを到達するまではIVの評価で良いのではないか。

(委員) 耳鼻咽喉科医師の確保については、第2期中期目標期間に残しているため平成30事業年度はVVで良いのではないか。

(平成30事業年度)

第1-2-(2) 医療安全対策の徹底

・法人の自己評価Vに対して、委員会の意見はIVとする。

(第1期中期目標期間)

第1-2-(2) 医療安全対策の徹底

・法人の自己評価Vに対して、委員会の意見はIVとする。

(委員長) 院内のアクシデントとしては、転倒転落が1番多いのか。

(病院) 認知症患者や高齢者の転倒転落が多い。対策としてセンサーマットや離床センサーベッドを使用しているが、完全に防ぐことは難しい。

(委員) 医局でも安全対策は徹底されたと思うが、結果が出ていないことから徹底という面では完璧ではないと考える。Vの評価で良いのか。

(病院) 大きな基幹病院ではリスクマネージャーが専任職として在職している。当院は職員数の問題もあって専任が置けていない状況。看護部がそれに近い機能を果たしているものの、医師に対しての医療安全対策が徹底されていないと考える。医師に対する周知、声かけができる仕組みの構築を検討している。

(平成30事業年度)

第1-2-(3) 計画的な医療機器の整備

・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(第1期中期目標期間)

第1-2-(3) 計画的な医療機器の整備

・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(平成30事業年度)

第1-2-(4) 第三者評価機関による評価

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(第1期中期目標期間)

第1-2-(4) 第三者評価機関による評価

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(委員長) ISOの監査について、次はいつごろ実施予定なのか。

(病院) 今年の12月予定である。内部監査は現在も実施している。

(平成30事業年度)

第1-3-(1) 患者中心の医療の提供

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(第1期中期目標期間)

第1-3-(1) 患者中心の医療の提供

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(平成30事業年度)

第1-3-(2) 快適性の向上

- ・法人の自己評価Vに対して、委員会の意見はVとする。

(第1期中期目標期間)

第1-3-(2) 快適性の向上

- ・法人の自己評価Vに対して、委員会の意見はVとする。

(委員) 院内の案内表示が分かりにくいのではないか。

(病院) 病棟や検査に行く方向が同じで、案内表示が難しい。表示(矢印)がありすぎると逆に分かりにくいので、引き続き検討する予定である。

(委員長) 患者満足度調査は、定量調査で調査結果が年度ごとに数値化されているので推移が分かる。一方で、場所が分かりにくい等、数字には表すことができない定性的な意見も必要であると考え。満足度の充足のため、病院利用者の定性的な意見を収集するため、アンケート等の取組みも必要ではないかと考

える。

(平成30事業年度)

第1-3-(3) 相談窓口の充実

- ・法人の自己評価Vに対して、委員会の意見はVとする。

(第1期中期目標期間)

第1-3-(3) 相談窓口の充実

- ・法人の自己評価Vに対して、委員会の意見はVとする。

(委員長) 今後の取組みとしてはどのように考えているのか。

(病院) 患者満足度調査では、入院外来ともに51%の方が知っているとの調査結果だった。さらに周知すべく広報誌「かけはし」、ホームページを活用し、地域の方への周知に努めたいと考えている。実際に広報誌1月号で相談窓口について記事を掲載する予定である。

(平成30事業年度)

第1-3-(4) 職員の接遇向上

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(第1期中期目標期間)

第1-3-(4) 職員の接遇向上

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(委員) 職員の接遇向上については、自分が体験しないと分からない。

体験学習を取り入れるなど、研修の中身を工夫すると良いのではないか。

(病院) 研修内容については、体験学習等さまざまなツールがあると思うが、どれを取り入れるかについては、職員に考えさせることも重要であるとする。

若手や中堅が携わる会議で検討させたい。

(平成30事業年度)

第1-3-(5) 地域住民への医療情報の提供

- ・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。



(第1期中期目標期間)

第1-3-(5) 地域住民への医療情報の提供

・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(病院) 広報誌「かけはし」を作成し、医療情報の提供をしているが、認知度は低く、あまり見られていない。町と連携し、配布枚数や配布方法を検討し、認知度をあげる努力をしたい。

(委員長) 広報誌「かけはし」の配布方法はどのようにしているのか。

(病院) 役場や公民館、院内、タウンバスに設置、関係部署に郵送している。

(委員) 町の広報誌に折り込みはしていないのか。

(病院) 町の広報誌に折り込みはしていない。周知方法については、町の広報誌への折り込みや自治区の回覧板への折り込み等が挙げられる。  
しかし、広報誌の折り込み料や印刷製本費等、費用が発生するため、今後検討していきたい。

(委員長) 広報誌の周知・配布方法については、検討の余地があると考えます。

(病院) ホームページについては、文字の大きさ・見やすさ等を検討して、予算を計上し、業者と相談し修正したことでかなり改善をしている。スマートフォン用のページも作成したので、今後に期待したいと考える。しかし、芦屋町は高齢者が多いため、ホームページはなかなか見てもらえない。  
ただ、これからも宣伝はしていきたい。

(委員) 住民は何をもって情報を得るのか。

(病院) 主に町の広報誌だと考える。

(委員) 広報誌が1番住民の目に入ると考える。

折り込み料や印刷製本費等の費用はかかったとしても、費用対効果のことを考えれば、町の広報誌に「かけはし」を折り込むべきではないか。

(平成30事業年度)

第1-4 法令遵守と情報公開

・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(第1期中期目標期間)

第1-4 法令遵守と情報公開

・法人の自己評価IVに対して、委員会の意見はIVとする。

(平成30事業年度)

第2-1 法人運営管理体制の確立

- ・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(第1期中期目標期間)

第2-1 法人運営管理体制の確立

- ・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(平成30事業年度)

第2-2-(1) 人事考課制度の導入

- ・法人の自己評価Ⅲに対して、委員会の意見はⅢとする。

(第1期中期目標期間)

第2-2-(1) 人事考課制度の導入

- ・法人の自己評価Ⅲに対して、委員会の意見はⅢとする。

- (委員) 人材育成に徹することが重要である。人事考課制度の業者は入れているのか。
- (病院) 人事考課制度の業者は入れている。評価者研修や被評価者研修等を実施している。人事考課制度は難しいので、急ぎすぎで医師のやる気を削がないように制度構築をしていきたいと考えている。

(平成30事業年度)

第2-2-(2) 予算の弾力化

- ・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(第1期中期目標期間)

第2-2-(2) 予算の弾力化

- ・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(平成30事業年度)

第2-2-(3) 適切かつ弾力的な人員配置

- ・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(第1期中期目標期間)

第2-2-(3) 適切かつ弾力的な人員配置

・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(委員) 認定看護師の採用に伴う緩和ケア病床の充実等、看護部については適材適所の人員配置をしているのではないかと。

(委員長) 現在の看護部の配置については、どう考えているのか。

(病院) 適材適所で配置していると考えている。しかし、外来に非常勤職員が多いので、そこを調節するのが少し難しいという問題はある。

(平成30事業年度)

第2-2-(4) 研修制度の推進

・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(第1期中期目標期間)

第2-2-(4) 研修制度の推進

・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(平成30事業年度)

第3-1-(1) 健全な経営の維持

・法人の自己評価Ⅲに対して、委員会の意見はⅢとする。

(第1期中期目標期間)

第3-1-(1) 健全な経営の維持

・法人の自己評価Ⅲに対して、委員会の意見はⅢとする。

(委員長) 目標を設定して、それを長く続けることが経営だと思っている。基本的には人材育成と人材確保に尽きるのではないかと。そういう意味では研修制度の推進など、必要な経費は使用することで、健全な経営を維持してほしいと思っている。

(平成30事業年度)

第3-1-(2) 収入の確保

- ・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(第1期中期目標期間)

第3-1-(2) 収入の確保

- ・法人の自己評価Ⅳに対して、委員会の意見はⅣとする。

(委員) 費用対効果をみるので、給与費が増加しているのに対し、医業収益の伸びが少ない。数字的には上がっているが、もう少し頑張れる余地があるのではないか。

(委員長) 医療サービスや質の向上にはつながったとは思いますが、それを長く続けるためには、収入の確保は必ずしなければならない。

収入は、客単価と客数、2通りの要素がある。どちらも上げるためには、まだまだ余地があるのではないか。

(病院) 診療単価は、入院外来ともに若干低めになっている。これについては、今後改善していかなければならないと考えている。

医業収益の増加について、費用対効果を考えたとき、短期間でみるとまだ上がっていない。現時点では、医師の採用数が増え、給与費は増加しているものの、今回採用した医師は、長期にわたって務めることができる医師を採用している。したがって、診療を続けていけば患者は増え、医業収益の増加につながると考えており、今後に期待したいと思っている。

また、委員から以前ご教示のあった若松区の患者の獲得については、公民館へ出向く他、若松区を含む近隣の介護施設や診療所等との連携を目的とした病院主体の講演会を年に2回開催している。参加人数は170人を超えている。今後ともこういった取組みで患者獲得につなげていきたいと考えている。

(委員長) 認知をすれば患者数の増加につながると考える。

(病院) 開催範囲を広めて住民公開講座等の実施も検討している。

(委員長) 公的な機関として、医療サービスをしている病院は、収入が重視されてくる。長期間サービスを続けるためには、収入の確保は不可欠なものであることから、今後とも積極的に取り組んでほしい。

(平成30事業年度)

第3-1-(3) 支出の節減

- ・法人の自己評価Ⅲに対して、委員会の意見はⅢとする。

(第1期中期目標期間)

第3-1-(3) 支出の節減

- ・法人の自己評価Ⅲに対して、委員会の意見はⅢとする。

(委員) 担当医がジェネリック医薬品を指定することはあるのか。

(病院) 医師が指定することはない。処方箋に医薬品名を記載することはある。

(委員) ジェネリック医薬品を使用することで、診療点数等に影響するのか。

(病院) 病院が使用している調剤のうち、ジェネリック医薬品は何%かという国による品目数の努力目標がある。

(委員) 支出削減についてのジェネリック医薬品の使用ということもあるのか。

(病院) ジェネリック医薬品を使用することで、特に入院における包括医療費支払い制度では支出節減になると共に、さらに外来患者の負担減につながる。

## ○その他

- ・事務局より今後の評価委員会のスケジュールについて、説明。

(閉会)